

項目	令和7年度の観点（方針として）	令和6年度の成果と課題
指導計画の作成と改善	1 [共通事項]を要とした題材指導計画を作成している。	○各領域や分野の学習に共通する音楽を形づくっている要素を要とし、歌唱、器楽、音楽づくり（創作）の関連を図った題材が構成されている。 ●思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素について精選できていないことがある。
	2 「知識」、「技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成の関係性を踏まえた指導計画となっている。	○小学校では、教科書に記載されている教材を扱うことで、学びの連続性のある指導計画が作成されている。中学校では、複数の題材の配列の仕方を工夫すること等、各領域や分野の関連を図るようにしたい。
	3 生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かにかかわる資質・能力の育成をする指導計画となっている。	●知覚・感受し、それらの関わりについて考えることはできているが、音楽が自己のイメージや感情、生活や文化との関わりにおいて意味あるものとして存在していることについて考えることは少ない。また、教科横断的な視点で指導計画を作成している学校はほぼない。（総合的な学習の時間で能や雅楽を取り組んでいるが、音楽科との連携が図られていない。）
個と集団への明確で的確な指導	4 音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、知覚と感受の関わりを考えられるような手立てを工夫している。	○教師の発問やワークシートの工夫により、「聴き取ったこと」と「感じ取ったこと」との関わりについて考えることができている。 ○小学校では「体を動かす活動」が、音楽との一体感を味わい、「音楽を形づくっている要素」を聴き取る学習において有効な手立てとなっている。
	5 実際に表現をすることで分かる実感を伴った理解や、様々な表現を試しながら思いや意図をもったり、技能を習得したりすることなど、表現活動を大切にした授業を展開している。	○思いや意図をもつ際に、ワークシートへの記入や仲間と交流をするなど、自分の考えを言語化した活動が積極的に行われている。 ●思いや意図が、具体性に欠けるため、「技能」との関わりで捉えられていないときがある。様々な歌い方を試す中で、「技能」を習得しながら思いや意図を更新したり新たな思いや意図をもったりしたい。
	6 児童・生徒が、学習状況を適切に捉え、見通しをもつことができるよう、教師は、学習状況を適宜把握して指導・援助している。	○児童・生徒が無意識に表現したことについて価値付け、表現した特徴やよさなどについて気付けさせることで、児童・生徒が考えた思いや意図を意識化させるような指導がなされている。 ○児童・生徒の表現の考えや表現のよさを全体で共有することで、仲間の学びから自らの学習を調整している。
学習集団の育成と学習習慣の確立	7 音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくための言語活動が充実している。	●言語活動が目的化され、音楽表現を高めることやよさを味わって聴く活動など、音楽活動が不十分な場合がある。思いや意図を言葉で伝え合いながら、実際に演奏したり、再度音楽を聴いたりすることで、音楽活動の楽しさを味わわせたい。
	8 児童・生徒にとって学びが深まる ICT の活用となっている。	○共有ソフトを用いて多くの仲間の考えを取捨選択しながら考えを深めたりしている。 ●ICTの活用が積極的に行われているが、文字や色、図形などを中心としながら行われ、音や音楽から切り離され、音や音楽との関連付けが不十分である。ICTの活用を、児童・生徒にとって学びが深まるアイテムとなっているか検討する必要がある。
	9 仲間の表現や、感じ方、考え方に触れ、自分の価値観が広がるなど、学び合うことの意義を実感できる学習集団の育成に努めている。	○聴き取ったことを音を通して共有したり、感じ取ったことやイメージしたことについて共感したりするなど、仲間と共に学ぶ場の設定により、一人一人の考えや感じ方を深めることができている。 ●グループ学習では、一部の児童・生徒の意見で進んでいることがある。集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、異なる考え方が組み合わせたり、よりよい学びを生み出す指導が必要である。